

2017年度第7回セミナー・講事メモ

県立大学4年、伊東寛晃

1、日時： 2017年10月20日（金）18:00～20:00

2、場所： 富山県立大学 環境工学科棟 I-318

3、講師： 貴堂 巖 先生

4、テーマ： 常願寺川の治水史 —佐々成政からデ・レイケまで—

5、参加人数： 14名

6、報告内容

デ・レイケと富山県

・デ・レイケ指導の常願寺川改修工事

富山県の底なし川（藍瓶）に向けて河口を作成しようとした

・常願寺川改修工事を実行したのはデ・レイケであるが、着手していたのは富山県の人々である

富山県はデ・レイケが来るまで手を拱いていたのではない

霞堤を採用、拡幅、用水の合口化で計画は進んでいたことの証明しなければならない

・神通川上流の鉾山の影響

岐阜県の鉾山事業により富山県が害されつつあるとデ・レイケは言っていた

◇質疑応答（事務局にて追記。発言のミスなどの違いはご容赦ください）

・自分の歴史研究が一般にはなかなか伝わらず、新聞もまず取り上げてくれない。

・遠藤和子さんの書いた歴史小説を、技術者がうのみにしていることをまま見かける。

・郷土史では、歴史家でなく工学家が歴史を研究していても世間は無視の傾向にあり、苦労している。

・「川ではない、滝である」の発言は、肯定にも否定にも資料がなく、事実関係は分からない。ドレイケがオランダ語で言ったのか、英語で行ったのか。（聞いていた方いたら）これをどう受け止めたのか。今となっては分からない。